

## 崩落前の石垣構造及びその復旧方針

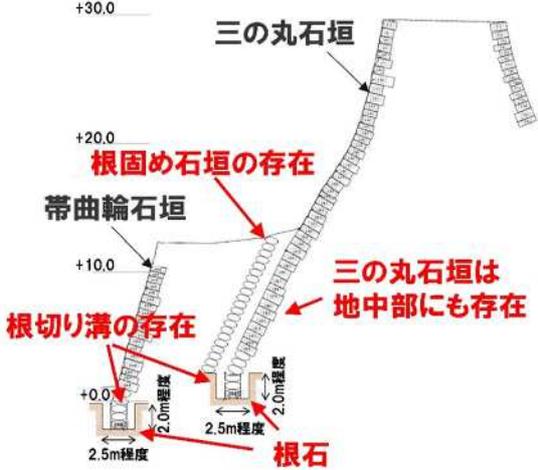
## 1. 丸亀城石垣崩落復旧整備事業の基本的考え方

本事業においては、丸亀城が市民のシンボルであり、次世代へ引き継いでいくべき貴重な文化財であることから、石垣の本質的価値である「歴史の証拠」、及び「安定した構造体」を継承すべく、伝統工法による復旧を基本としつつ、長期的な石垣の安定性確保のため、文化財的価値への影響が最小限に留まるような現代工法についても検討しながら、早期復旧を目指すものである。

## 2. 調査により明らかとなった石垣構造

石垣の崩落は地上部のみならず、地中深くにまでおよび、写真等の記録がない地中部においては、その構造を把握することは困難であったが、復旧工事における各種調査の積み重ねにより以下の構造を明らかにすることができた。

- ① 三の丸石垣は地上部 17m、地中部 14m、合計 31m の高さであった
- ② 三の丸石垣地中部の前面には、根固め石垣が積み上げられていた
- ③ 31m の高さを支える三の丸石垣の最下段は、地山に溝を掘り（根切り溝）、その中に根石を据える構造であった

	
<p>三の丸石垣地中部状況</p>	<p>丸亀城南西部石垣構造概略図</p>
	
<p>根固め石垣</p>	<p>三の丸石垣最下段検出位置</p>

<p>三の丸石垣最下段検出状況</p>	<p>根切り溝検出状況</p>

### 3. 復旧方針

復旧工事における各種調査により明らかとなった地中部構造は、三の丸石垣が31mという日本屈指の高さを誇る石垣であったという事実を裏付けるものであり、崩落に至るまで長期間にわたりその形を安定させたものであったと評価できる。これらの事実、評価は石垣の本質的価値である「歴史の証拠」、「安定した構造体」として継承すべきものであり、復旧する石垣が将来においても正しく理解されるよう地中部構造についても、調査成果から導き出された本来あるべき構造で復旧すべきと考えている。

以上のことから、本事業の基本的考え方に則り、以下の方針で石垣を復旧することとする。

- ① 調査に基づき明らかとなった石垣構造（地中部に隠れていた箇所であっても元の形状）に復旧する。
- ② 崩落前は地中部にあり、崩落により元の位置が分からない石材各々についても、回収位置等から元の位置を推測し、復旧する。
- ③ 三の丸石垣最下段に残存する遺構である根石及び根切り溝は保存を最優先とし、直上からの復旧（積直し）が難しい場合は、遺構の保存と石垣の安定性の観点から現代工法も視野に復旧を行う。